

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000670		
法人名	有限会社ウイング		
事業所名	グループホームつばさ吉原		
所在地	愛知県豊田市吉原町前田59		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2393000670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2393000670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍であるため、開業当時から外出事は自粛しているが、毎日のように散歩に出かけ、外気浴をする事で気分転換を図っている。  
 また、おやつ作り等を通じて季節を感じてもらう事に注力している。  
 ・家庭的な雰囲気の中、各利用者が役割を持って活動し、穏やかに生活をしている。  
 ・利用者・家族様との信頼関係を築き、個々のニーズに沿ったケアプランを基にした「寄り添った介護」を行っている  
 ・管理栄養士によるバランスの良い食事を提供し、健康管理に十分配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの目標を「お年寄りに振り回されよう」とし、利用者が自由に好きなことができるよう支援している。利用者一人ひとりに合わせた支援を基本とし、共同生活の中でもしたくないことは無理強いせず、個性を大切に趣味や生活習慣の維持・継続ができるよう支援している。  
 開設3年目であるが、自治会長や民生委員などの理解・協力を得ている。地域防災や地元開催のイベントへの参加、中学生からの千羽鶴の寄贈など、地域交流も積極的に取り組んでいる。入居者の紹介やホーム見学など、地域での認知度も高まっている。  
 毎月のミーティングを通して、認知症の理解や権利擁護、接遇などのテーマを定めて勉強会を開催している。それを支援に繋げ、チームワークよく職員全員で利用者を支援する体制を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議において理念の共有が出来るように話し合っている	「いきいきわくわく生活しよう」の法人理念の下、ホーム独自で「お年寄りに振り回されよう」という活動目標を設定している。利用者が、自分のペースでやりたいことができる生活の継続を目指し、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶を行い、立ち話をしたりしている。今年敬老の日に、近隣中学生からのプレゼントをいただいた。	玄関には、中学生から寄贈された千羽鶴が飾られている。参加できなかったが、自治会長から地域のスポーツフェスティバルに招待されている。地域住民から入居の問い合わせなどもあり、地域の認知度は高まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、地域の方々に集まって頂くことは出来なかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防対策を取り、対面での会議を行う事で沢山の意見を頂く事が出来た。地域活動への参加が出来、サービスの向上に活かす事が出来た。	地域包括支援センター、自治会長、民生委員が参加して、対面で運営推進会議を開催している。自治会長・民生委員からは、地域防災での連携や公民館フェスティバル(地域文化祭)への参加要請なども出されている。	運営推進会議への家族参加が得られていない。利用者や家族の会議参加を促し、提供するサービス向上を図っていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと連携し、徘徊していた方の保護を行った	消防計画は、直接窓口で提出している。運営推進会議議事録を提出し、ホームの運営状況は地域包括支援センターを通じて伝えている。助成金を活用してタブレット導入を予定するなど、サービスの向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所は夜間以外、施錠をしない事によって利用者様が自由に外気に触れる事が出来るようにしている また、三点柵の意味、スピーチロックについて理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を法人内で開催している。事例検討などを行い、ホーム内ミーティングで周知している。年1回の職場アンケートでは、不適切ケアについても振り返りを行い、職員への理解浸透を図っている。身体拘束が必要となった際の手順は決められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	3か月ごとに身体拘束についての勉強会を行っている 職員にアンケートを行い、虐待の芽を発見できるような体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について毎年ユニット会議で勉強会を行っている 今のところ、成年後見人制度を利用する方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全文を読み上げながら、わかりやすい言葉で補足説明しながら、ご理解・ご納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へはなかなか表す事が出来ていないが、利用者・家族様のご意見は、電話連絡時、ケアプランの更新時に伺い、運営に反映させている	面会時や電話連絡時に、家族意見の聞き取りを行っている。利用者の近況を詳細に伝えることで、意見の出しやすい環境づくりに努めている。面会や外食の再開などの要望が出され、法人内で検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノート、申し送り、ユニット会議等で意見交換を行い、その意見が反映される様報告している	管理者も現場に入り、毎月のユニット会議のほか、日常においても意見・提案が言える職場環境が整っている。職員から看護職員の配置要請があり、法人本部で採用活動中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談やアンケートなどを行い、向上心を持って働けるよう努力している シフトの希望を調整したり、会社への貢献度により昇給する事を伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格・未経験者に対する研修を行っている 介護福祉士資格を持った職員が講師となり共に勉強する機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修に参加し、他事業所職員との意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネや家族様からの情報を基に、優しい声掛けと傾聴によりご本人の意向や不安な事・困っている事を聞き取れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申し込みの際に十分な聞き取りをし、どのようなかわり方が良いのかを一緒に考える事で信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様にとって何が必要であるかを、アセスメント時に見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を中心に、利用者様が自発的に行えるような環境を整えている。また知恵袋的に、利用者様から教わる事も多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族様のそれぞれの立場を理解し、面会時には良好な関係性が保たれる様支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りの支援を行い、これまでの関係性が継続できるように努めている	面会ができないが、知人・友人の来設があり、手紙や電話などの通信支援で、関係継続できるよう努めている。写真好きの利用者は、散歩にカメラを持って出かけるなど、趣味や生活習慣の継続にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション以外でも、仲の良い方同士が関わる事が出来るように、家事を行う・自由時間を過ごす時には配席に留意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に行かれても、家族様からのご相談に乗り支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察や、雑談の中から本人の意向を汲み取ったり、意思の疎通が困難な方については、職員が検討している	日々の関りの中での会話や表情・仕草から、思いや意向の把握に努めている。発語や思いなど、汲み取った情報は、「私の基本情報シート」や「申し送りノート」に記録し、職員間で情報共有して支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からのお話しや、アセスメントシートを活用して情報を集め、共有する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、申し送りを丁寧に行う事で、どのような状態であるかを把握して共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員によるアセスメントとモニタリングを行い医療機関と連携して、担当者会議を開催する事で意見を反映した計画書を作成している	定期では3ヶ月毎に、職員全員でモニタリングを行い、80%の達成度を評価基準として、継続支援か新たな目標設定かを判断している。家族意見も反映させ、利用者に向けた介護計画立案に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護日誌を活用して情報を共有しており、カンファレンスでは意見を出し合い、計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、サービスの見直しを行い、型に囚われない柔軟な支援を行うよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加させて頂いたり、民生員さんとの連携により、豊かな暮らしを楽しめるように努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診の他、必要に応じて電話相談の上速やかな受診を受けている	利用者全員が施設協力医をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療のほか、随時、訪問看護師と連携して、適切な診療が受けられるよう支援している。訪問歯科も月1回来設し、診察・口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護の際に情報の共有を行い、きめ細かい指導をして頂き、かかりつけ医との連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には翌日までにサマリーを送り、家族様了承の上、担当看護師やMSWと連絡を取り、治療経過を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をしておき、「重度化の指針」については毎年意向を確認している 共同生活が困難になった場合に、医師・看護師と相談し、適切な移行先を探す方針であることを説明している	医療的処置が必要となる、常時車いす使用となる、介護度が4以上となるなど、共同生活が困難となった場合には、医師や看護師を含め家族と相談し、適切な移行先を探す方針を入居時に説明している。今年、利用者1名が他施設に移行した事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議で勉強会を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度計画により、地震・火災訓練を行っている 運営推進会議で、地域との話し合いを行っている	年2回火災想定で、通報・避難・初期消火の訓練を行っている。消防署立ち合いでの救急救命訓練では、搬送時の注意事項などのアドバイスを得ている。自治会長とは災害時の連携について話し合っている。	ホーム内に災害用の備蓄が準備されていない。また、停電対策も未検討となっている。法人本部とも調整し、備蓄品の確保や、停電時の対応など、検討・対策しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を開催し、人格の尊重等については常に見直している	毎月のミーティングではテーマを決め、プライバシー確保や権利擁護、接遇などの勉強会を行っている。利用者を年長者として敬い、声掛けや言葉遣いなどに気を配っている。無理強いをせず、自然体の生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々により、選択肢を考え、本人が選択できるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴時間以外については、個人のペースを把握し、希望を伺いながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の使い方や保管方法を声掛けする事で、継続しておしゃれが楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けを一緒に行ったり、洗い物や片付けも職員と一緒にしている。盛り付けも一人一人の好みに合わせている	前日にレシピ付きの食材が届き、利用者と一緒に調理や盛り付けなどを行っている。利用者の嗜好や状態により、食べやす形状にして提供している。行事食やおやつレクなど、食を楽しむことができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、バランスの良い食事を提供している。飲水については、個人の習慣を把握し、しっかりと水分摂取が出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをしたり、介助が必要な方には、仕上げ磨きなどを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けの他、個々のパターンを把握してトイレでの排泄が継続できるように支援している	自立度の高い利用者が多く、見守りを中心とした支援に努めている。「排せつチェック表」を活用し、利用者のペースに合わせた声掛けや誘導で失禁を予防し、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動を促したり、週3回はヨーグルトを提供している。 また、医療機関と連携し、下剤の調整をして頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく、主治医医院の開いている午前中に入浴して頂いている タイミングが合わない場合には、午後からの入浴も行っている	週2回の入浴を基本としているが、希望すれば毎日でも入浴することができる。柚子や菖蒲などの季節湯で、色や香り、季節を感じている。マイシャンプーの利用など、利用者が寛いで入浴できるよう配慮もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣により、ソファでくつろぐ事が出来るような配慮や、不安がある方には傾聴するなどして安心して入眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はいつでも確認できるよう、個人ファイルに入れてある。 薬の変更がある時にはノート等で情報を共有し、症状の変化をきろくするよう		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	複数のアクティビティを用意し、各々が選択できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の際には仲の良い方同士、また歩くペースが同じような方と出かけている。 コロナ禍であるため、普段行けないような場所への支援は出来ない	利用者の体調や天候も考慮しつつ、ホーム周辺の散歩を日課としている。散歩できない場合には、玄関わきの椅子に腰をかけ、外気浴で気分転換をしている。初詣や花見などは人混みを避けて出かけ、外出機会を多く設けるよう取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で、買い物支援が出来ていない。お小遣いを金庫で預かり訪問美容、はがきの購入等、支払い後に出納帳に記入し、確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状のやりとりや、電話の取次ぎなどの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を大きくわかり易くした 昼夜での調光をかえている フロア飾りには季節感を取り入れ、外気を感じる事が出来るように支援している	リビングには掃き出し窓があり、温かい日差しの下、ソファで寛ぐ利用者もいる。利用者は日中リビングで過ごすことが多く、照明の調光や換気にも気を配っている。安全で自由に利用者の好きなことができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に設置した二人掛けのソファに座り、景色を眺めながら話ができる環境を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具などを搬入して頂いたり、ご家族の写真を置いて心地よく生活できる工夫をしている	利用者の孤立を予防するため、テレビの持ち込みは断っているが、使い慣れたチェストや生活雑貨は持ち込まれている。家族の写真や趣味のものを置き、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入口に、ご本人の好みの絵柄を付けた名前を表示してある 雑誌やパズルなどは、ご自身で選んで持ち出せるようにしてあり、出来る事を継続するように見守っている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393000670		
法人名	有限会社ウイング		
事業所名	グループホームつばさ吉原		
所在地	愛知県豊田市吉原町前田59		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2393000670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2393000670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年10月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・コロナ禍であるため、開業当時から外出行事は自粛しているが、毎日のように散歩に出かけ、外気浴をする事で気分転換を図っている。  
 また、おやつ作り等を通じて季節を感じてもらう事に注力している。  
 ・家庭的な雰囲気の中、各利用者が役割を持って活動し、穏やかに生活をしている。  
 ・利用者・家族様との信頼関係を築き、個々のニーズに沿ったケアプランを基にした「寄り添った介護」を行っている  
 ・管理栄養士によるバランスの良い食事を提供し、健康管理に十分配慮している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議において理念の共有が出来るように話し合っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶を行い、立ち話をしたりしている。 今年は敬老の日に、近隣中学生からのプレゼントをいただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、地域の方々に集まって頂くことは出来なかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防対策を取り、対面での会議を行う事で沢山の意見を頂く事が出来た。地域活動への参加が出来、サービスの向上に活かす事が出来た。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと連携し、徘徊していた方の保護を行った		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所は夜間以外、施錠をしない事によって利用者様が自由に外気に触れる事が出来るようにしている また、三点柵の意味、スピーチロックについて理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月ごとに身体拘束についての勉強会を行っている 職員にアンケートを行い、虐待の芽を発見できるような体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について毎年ユニット会議で勉強会を行っている 今のところ、成年後見人制度を利用する方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全文を読み上げながら、わかり易い言葉で補足説明しながら、ご理解・ご納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へはなかなか表す事が出来ていないが、利用者・家族様のご意見は、電話連絡時、ケアプランの更新時に伺い、運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノート、申し送り、ユニット会議等で意見交換を行い、その意見が反映される様報告している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談やアンケートなどを行い、向上心を持って働けるよう努力している シフトの希望を調整したり、会社への貢献度により昇給する事を伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格・未経験者に対する研修を行っている 介護福祉士資格を持った職員が講師となり共に勉強する機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修に参加し、他事業所職員との意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネや家族様からの情報を基に、優しい声掛けと傾聴によりご本人の意向や不安な事・困っている事を聞き取れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申し込みの際に十分な聞き取りをし、どのようなかわり方が良いのかを一緒に考える事で信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様にとって何が必要であるかを、アセスメント時に見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を中心に、利用者様が自発的に行えるような環境を整えている。また知恵袋的に、利用者様から教わる事も多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族様のそれぞれの立場を理解し、面会時には良好な関係性が保たれる様支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りの支援を行い、これまでの関係性が継続できるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション以外でも、仲の良い方同士が関わる事が出来るように、家事を行う・自由時間を過ごす時には配席に留意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に行かれても、家族様からのご相談に乗り支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察や、雑談の中から本人の意向を汲み取ったり、意思の疎通が困難な方については、職員が検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からのお話しや、アセスメントシートを活用して情報を集め、共有する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、申し送りを丁寧に行う事で、どのような状態であるかを把握して共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員によるアセスメントとモニタリングを行い医療機関と連携して、担当者会議を開催する事で意見を反映した計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護日誌を活用して情報を共有しており、カンファレンスでは意見を出し合い、計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、サービスの見直しを行い、型に囚われない柔軟な支援を行うよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加させて頂いたり、民生員さんとの連携により、豊かな暮らしを楽しめるように努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診の他、必要に応じて電話相談の上速やかな受診を受けている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護の際に情報の共有を行い、きめ細かい指導をして頂き、かかりつけ医との連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には翌日までにサマリーを送り、家族様了承の上、担当看護師やMSWと連絡を取り、治療経過を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をしており、「重度化の指針」については毎年意向を確認している 共同生活が困難になった場合に、医師・看護師と相談し、適切な移行先を探す方針であることを説明している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議で勉強会を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度計画により、地震・火災訓練を行っている 運営推進会議で、地域との話し合いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を開催し、人格の尊重等については常に見直している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々により、選択肢を考え、本人が選択できるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴時間以外については、個人のペースを把握し、希望を伺いながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の使い方や保管方法を声掛けする事で、継続しておしゃれが楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けを一緒に行ったり、洗い物や片付けも職員と一緒にしている。 盛り付けも一人一人の好みに合わせている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、バランスの良い食事を提供している。 飲水については、個人の習慣を把握し、しっかりと水分摂取が出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをしたり、介助が必要な方には、仕上げ磨きなどを行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けの他、個々のパターンを把握してトイレでの排泄が継続できるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動を促したり、週3回はヨーグルトを提供している。 また、医療機関と連携し、下剤の調整をして頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく、主治医医院の開いている午前中に入浴して頂いている タイミングが合わない場合には、午後からの入浴も行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣により、ソファでくつろぐ事が出来るような配慮や、不安がある方には傾聴するなどして安心して入眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はいつでも確認できるよう、個人ファイルに入れてある。 薬の変更がある時にはノート等で情報を共有し、症状の変化をきろくするよう		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	複数のアクティビティを用意し、各々が選択できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の際には仲の良い方同士、また歩くペースが同じような方と出かけている。 コロナ禍であるため、普段行けないような場所への支援は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で、買い物支援が出来ていない。 お小遣いを金庫で預かり訪問美容、はがきの購入等、支払い後に出納帳に記入し、確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状のやりとりや、電話の取次ぎなどの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を大きくわかり易くした 昼夜での調光をかえている フロア飾りには季節感を取り入れ、外気を感じる事が出来るように支援している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に設置した二人掛けのソファに座り、景色を眺めながら話が出来る環境を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具などを搬入して頂いたり、ご家族の写真を置いて心地よく生活できる工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入口に、ご本人の好みの絵柄を付けた名前を表示してある 雑誌やパズルなどは、ご自身で選んで持ち出せるようにしてあり、出来る事を継続するように見守っている		